

台 風 の 波

昭和36年 9月16日10時30分 (茂木豊治撮影)

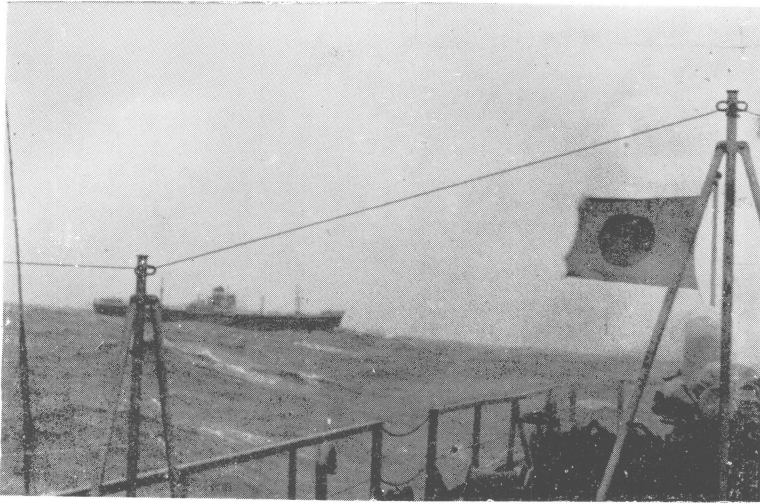


写真1

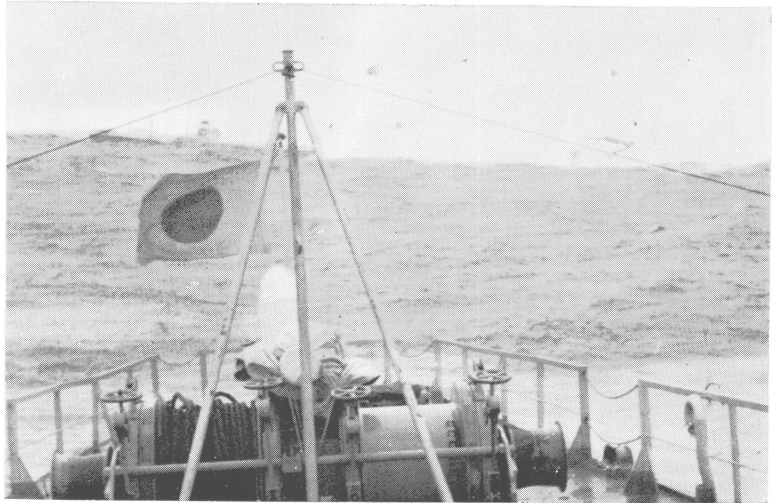


写真2

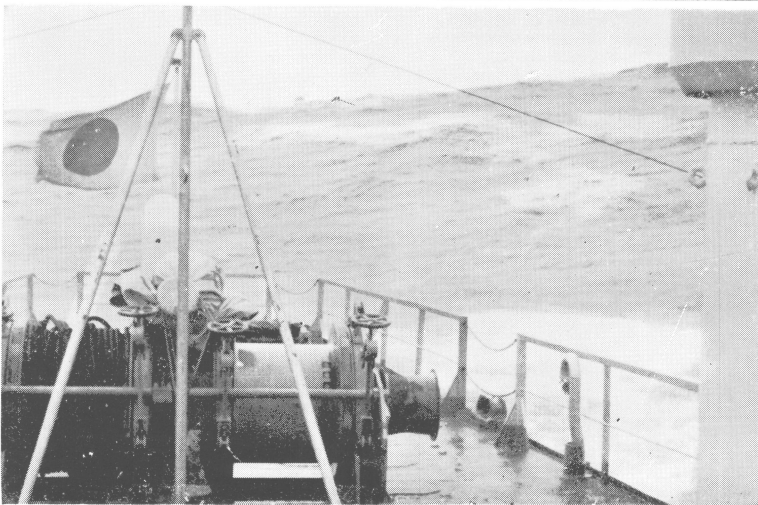
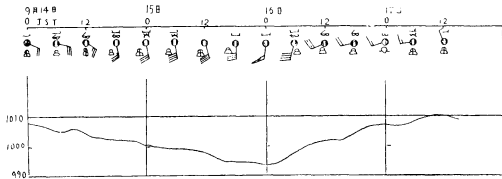


写真3

## 台風 の 波

台風に伴う波長の大きさを如実に示すひとつの資料を提供する。写真1. 2. 3は昨年(昭和35年)の台風18号が、室戸岬付近に上陸した直後、9月16日10時30分に南方定点において写したものである。風速は、台風の北上中は20ノット前後であったが、14日朝より直線的に増大し始め、15日夜半50ノットに達して最大となり、それより風勢衰退して、写真撮影の頃には35ノットまで低下した。この間、風向は東南東より西南西まで順旋した。この状況を示すために、第1図に当時のシーケンスを、第2図に16日10時の天気図を掲げた。



第1図 室戸台風の接近時における南方定点のシーケンス

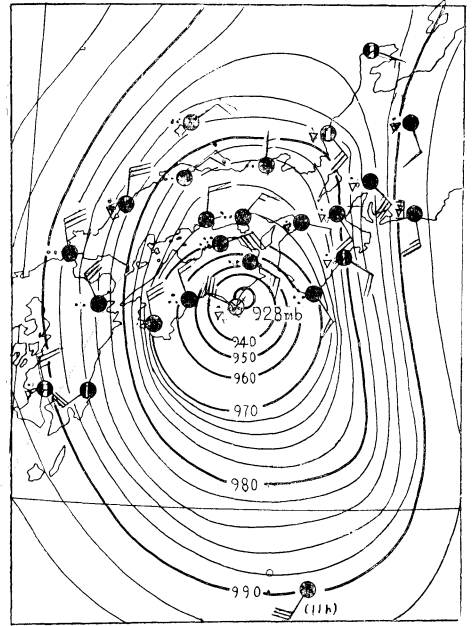
写真に見る船は、8000トン位と思われるギリシャ船である。この船は観測船「あつみ」の後方約500mの距離を通過したのであるが、台風による大波のため船影は殆ど隠されて、煙突とマストの一部がかすかに見えるだけになった。

第3図に船と波の相対的なディメンションを示し、それに基づいて波高の推定を行った結果、波高はおよそ10mと求められた。但し、カメラの高さ以外は目測又は推測によるもので、或る程度の誤差は免かれぬのであるが、台風中心を観測船の距離が尤も接近した15日夕刻より夜半にかけては波高15mの波が現われているのであるから、この推定波高は当らずとも遠からずである。

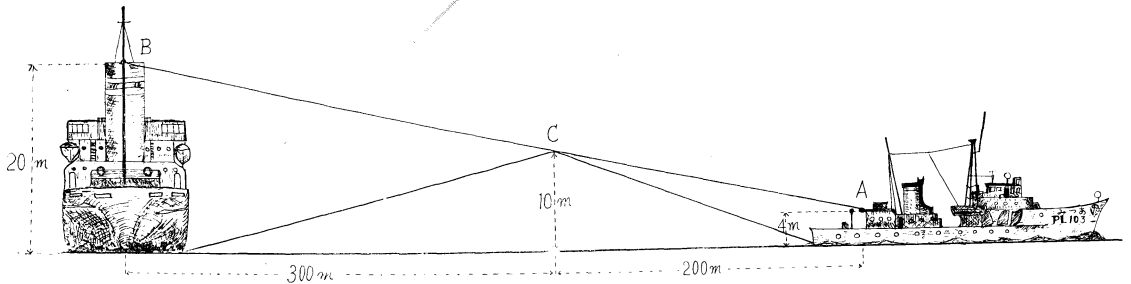
このような大波が風勢の衰退期に入ってから後にも存

続したのは、台風中心が九州の南端から室戸までフェッチを東方に開いて通過した為、一衣帯水の四国沖においては、波の減衰が少なかったこと、台風後面の風向のやや急な変化によって新たに生じた波と古い波とが干渉を起したことによるものと思われる。

序でに、当日の東京湾の状況を述べるならば、千葉県五井沖に遡泊中の定点観測船「おじか」の観測によれば、風速は16日7時より10m/sを越し、15時には20m/sを突破し、最大は18時の26m/sであった。波高は正午頃より3mとなり、18時には3.5mとなって、この状態は21時まで続いた。その後は台風の遠ざかると共に風も波も急速に減衰した。(海洋気象部 海上気象班 提供)



第2図 昭和36年9月16日10時



第3図 波と船との相対的關係 Aはカメラの位置. Bはギリシャ船の煙突. Cは写真に見える波の峯